

「日本におけるカニクイサル等（非ヒト霊長類）の需
要と供給の現状把握と不足見込み数の推計並びに今後の
検討・提言に向けた研究（23CA2010）」研究班における
サル試験等の実態調査における調査研究事業
簡易報告書
【アカデミア版】

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

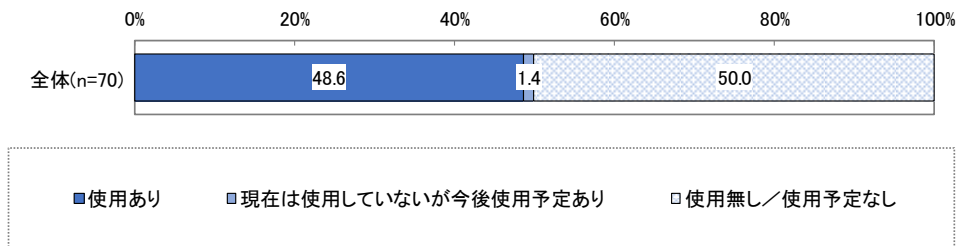
令和6年（2024年）2月

1 サル類の使用について

(1) Q1. 貴施設におけるサル類の使用について（外部委託を含め）教えてください。

全体では、「使用あり」が 48.6%、「現在は使用していないが今後使用予定あり」が 1.4%、「使用無し／使用予定なし」が 50.0%であった。

図表 1 貴施設におけるサル類の使用について（外部委託を含め）教えてください。

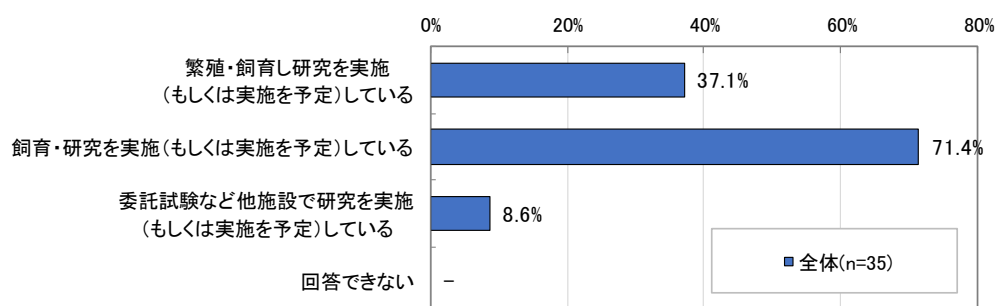


	全体	使用あり	現在は使用していないが今後使用予定あり	使用無し／使用予定なし
n数	70	34	1	35
%	100%	48.6%	1.4%	50.0%

(2) Q1-1. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」を回答した方】使用状況（もしくは予定）を教えてください。（複数選択）

全体では、「飼育・研究を実施（もしくは実施を予定）している」が71.4%と最も高く、「繁殖・飼育し研究を実施（もしくは実施を予定）している」が37.1%、「委託試験など他施設で研究を実施（もしくは実施を予定）している」が8.6%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 2 使用状況（もしくは予定）を教えてください。（複数選択）



	全体	繁殖・飼育し研究を実施（もしくは実施を予定）している	飼育・研究を実施（もしくは実施を予定）している	委託試験など他施設で研究を実施（もしくは実施を予定）している	回答できない
n数	35	13	25	3	-
%	100%	37.1%	71.4%	8.6%	-

(3) Q1-2. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」を回答した方】差支えない範囲で利用目的を記載ください。

主な利用目的

- ・脳神経研究、神経科学研究、脳研究 等 20 件
- ・ワクチン開発 6 件
- ・薬開発 5 件
- ・生殖、繁殖研究 3 件

「利用目的」の具体的な内容

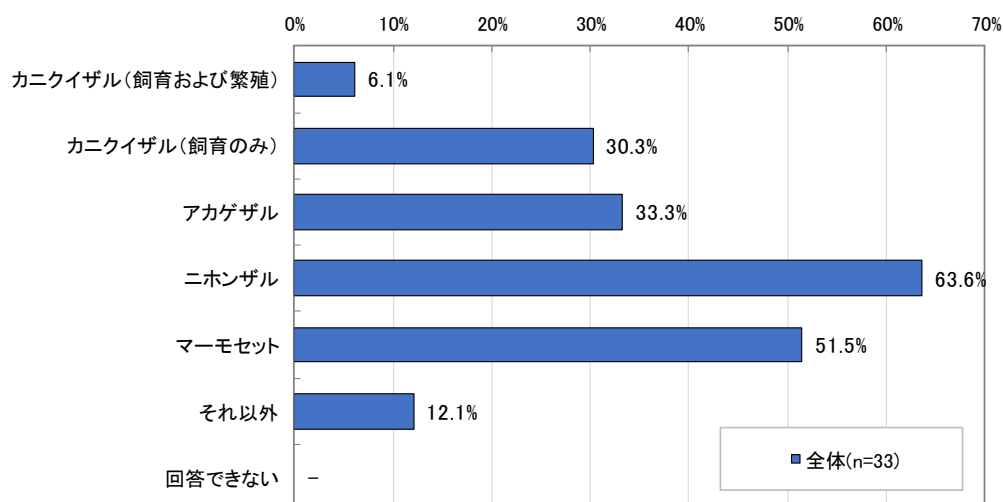
1	脳神経研究 (10 件)
2	脳神経研究、再生医療
3	脳神経研究、等
4	脳神経研究に使用
5	新しい胚操作実験技術の開発研究、脳神経研究
6	発生工学技術開発、脳神経研究
7	神経科学研究 (2 件)
8	脳研究、繁殖研究、精神医学研究
9	脳科学研究
10	脳神経障害・生活習慣病の研究
11	創薬、ワクチン開発等の医科学研究。繁殖、モデル動物開発等の実験動物学的研究など。
12	ワクチン開発
13	ワクチン開発、薬開発
14	ワクチン開発など
15	医科学研究、ワクチン開発
16	病態解明研究、薬開発、ワクチン開発
17	カニクイザル：薬開発 マーモセット：実施予定
18	治療薬の開発研究
19	生殖研究
20	医学・生命科学研究
21	細胞移植研究
22	疾患治療技術開発
23	網膜疾患の治療法の確立

2 サル類の飼育・繁殖について

(1) Q2. 【Q1-1で「繁殖・飼育し研究を実施（もしくは実施を予定）している」「飼育・研究を実施（もしくは実施を予定）している」と回答した方】飼育・繁殖を実施（もしくは実施を予定）しているサルの種類について教えてください。（複数選択）

全体では、「ニホンザル」が63.6%と最も高く、「マーモセット」が51.5%、「アカゲザル」が33.3%、「カニクイザル（飼育のみ）」が30.3%、「カニクイザル（飼育および繁殖）」が6.1%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 3 飼育・繁殖を実施（もしくは実施を予定）しているサルの種類について教えてください。（複数選択）



	全体	カニクイザル(飼育および繁殖)	カニクイザル(飼育のみ)	アカゲザル	ニホンザル	マーモセット	それ以外	回答できない
n数	33	2	10	11	21	17	4	-
%	100%	6.1%	30.3%	33.3%	63.6%	51.5%	12.1%	-

「それ以外」の内容

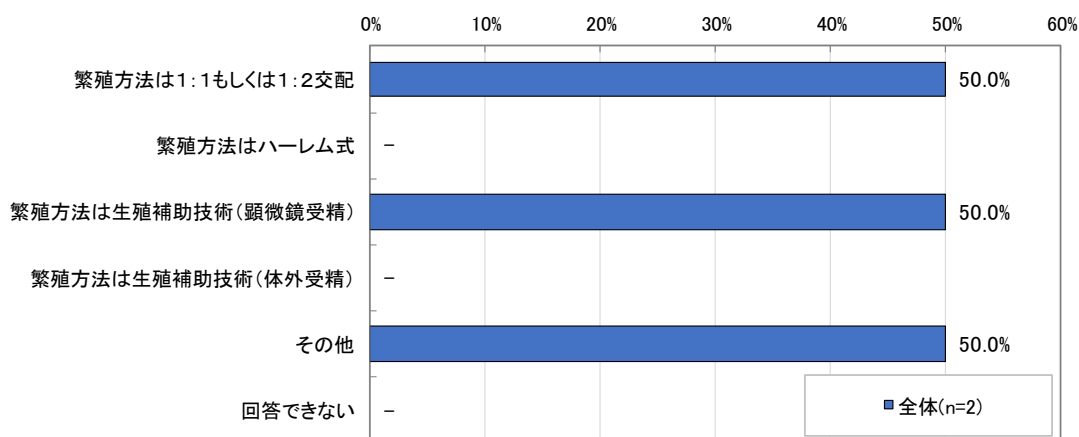
1	チンパンジー、アジルテナガザル、ワタボウシタマリン
2	ミドリザル
3	リスザル、ヨザル
4	研究に必要な種があれば飼育することはある。

3 カニクイザルの繁殖について

(1) Q3. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】カニクイザル繁殖方法について教えてください。（複数選択）

全体では、「繁殖方法は1：1もしくは1：2交配」と「繁殖方法は生殖補助技術（顕微鏡受精）」が50.0%と最も高く、「繁殖方法はハーレム式」と「繁殖方法は生殖補助技術（体外受精）」が0.0%であった。また「回答できない」が0.0%であった。

図表 4 カニクイザル繁殖方法について教えてください。（複数選択）



	全体	繁殖方法は1:1もしくは1:2交配	繁殖方法はハーレム式	繁殖方法は生殖補助技術(顕微鏡受精)	繁殖方法は生殖補助技術(体外受精)	その他	回答できない
n数	2	1	-	1	-	1	-
%	100%	50.0%	-	50.0%	-	50.0%	-

「その他」の内容

1	研究として人工授精やその他の発生工学的手法を実施することはある
---	---------------------------------

(2) Q3-1. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】サル専用の排卵誘発剤がないなど繁殖における課題はありますか？

1	ヒト FSH/CG を使用していると抗体が生じる課題がある
2	内分泌学的にコントロールする手法を繁殖には用いていない。なお、研究や妊娠維持のためにホルモン製剤を投与することはある。

(3) Q4-1. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】カニクイザル繁殖詳細について教えてください。

<繁殖に用いる動物数>

全体では、「平均」が350.0頭、「中央値」が350.0頭、「最小値」が200頭、「最大値」が500頭であった。また「標準偏差」は150.00であった。

図表 5 繁殖に用いる動物数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	2	350.0	350.0	150.00	200	500

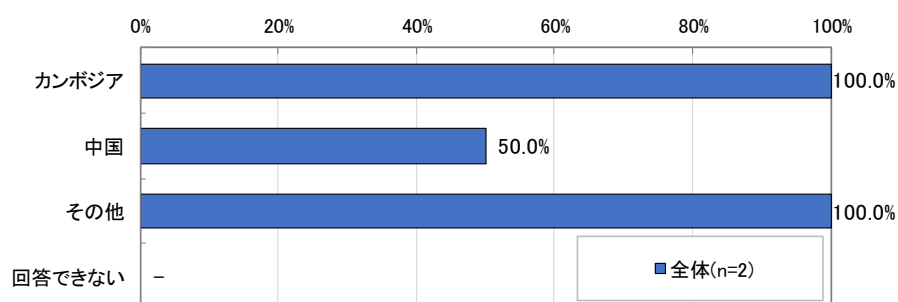
「その他（補足事項）」の内容

1	採卵用、仮親用を合わせた数
2	常時 1,500-2,000 頭を飼育管理しているが、繁殖目的と繁殖訓練のための個体数は雌雄あわせて約 500 頭である。

(4) Q4-2. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】生産地（繁殖地）を教えてください。（複数選択）：カニクイザル繁殖詳細について教えてください。

全体では、「カンボジア」が100.0%と最も高く、「中国」が50.0%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 6 生産地（繁殖地）を教えてください。（複数選択）



	全体	カンボジア	中国	その他	回答できない
n数	2	2	1	2	-
%	100%	100.0%	50.0%	100.0%	-

「その他」の内容

1	フィリピン、インドネシア、マレーシア産の個体を系統維持している。その他、頭数は少ないがカンボジア由来の個体を中国経由で入荷し保有している。
2	ベトナム、フィリピン、インドネシア

(5) Q4-3. Q4-4. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】カニクイザル繁殖詳細について教えてください。

<2019年以降の年間平均生産数>

全体では、「平均」が110.0頭、「中央値」が110.0頭、「最小値」が20頭、「最大値」が200頭であった。また「標準偏差」は90.00であった。

図表 7 2019年以降の年間平均生産数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	2	110.0	110.0	90.00	20	200

「その他（補足事項）」の内容

1	2019年:16、2020年:13、2021年:16、2022年:15、2023年21(+5)（遺伝子改変を含む）
2	妊娠数は約250頭。帝王切開を含む正産で約200頭の個体を得ている。

<最大繁殖可能数>

全体では、「平均」が150.0頭、「中央値」が150.0頭、「最小値」が50頭、「最大値」が250頭であった。また「標準偏差」は100.00であった。

図表 8 最大繁殖可能数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	2	150.0	150.0	100.00	50	250

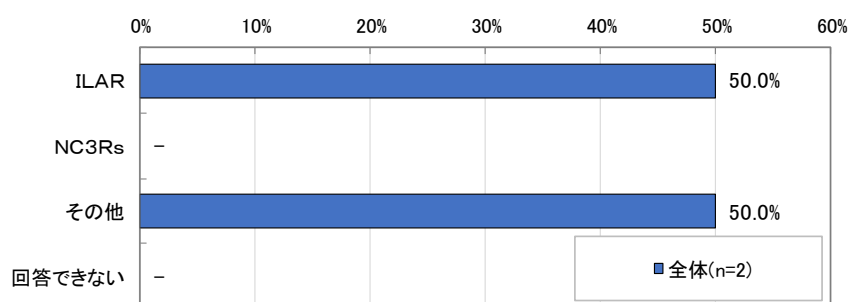
「その他（補足事項）」の内容

1	現在の施設規模では250程度が限界と思われる。繁殖・育成技術は確立されているので増設等があれば規模を拡大することは可能である。
2	施設を拡張すれば、増産に対応可能

(6) Q4-5. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】繁殖施設規格を教えてください。（複数選択）：カニクイザル繁殖詳細について教えてください。

全体では、「ILAR」が50.0%と最も高く、「NC3Rs」が0.0%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 9 繁殖施設規格を教えてください。（複数選択）



	全体	ILAR	NC3Rs	その他	回答できない
n数	2	1	-	1	-
%	100%	50.0%	-	50.0%	-

「その他」の内容

1	不明
---	----

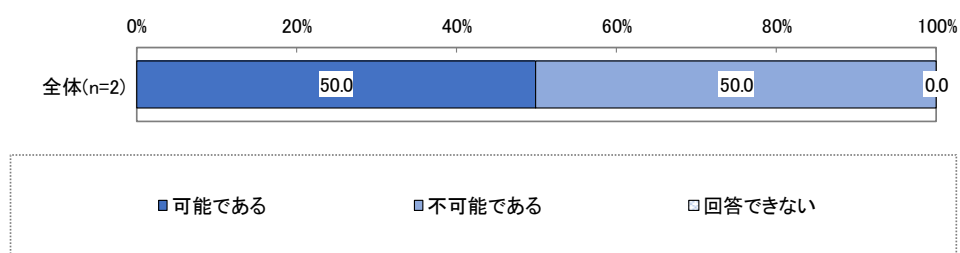
(7) Q4-6. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

特に記載はなかった。

(8) Q5. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】遺伝子改変疾患モデルサルの作製技術の有無について教えてください。

全体では、「可能である」が50.0%、「不可能である」が50.0%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 10 遺伝子改変疾患モデルサルの作製技術の有無について教えてください。



	全体	可能である	不可能である	回答できない
n数	2	1	1	-
%	100%	50.0%	50.0%	-

「可能である理由」の内容

1	これまでトランスジェニック、ゲノム編集カニクイザルを作製してきた実績がある
---	---------------------------------------

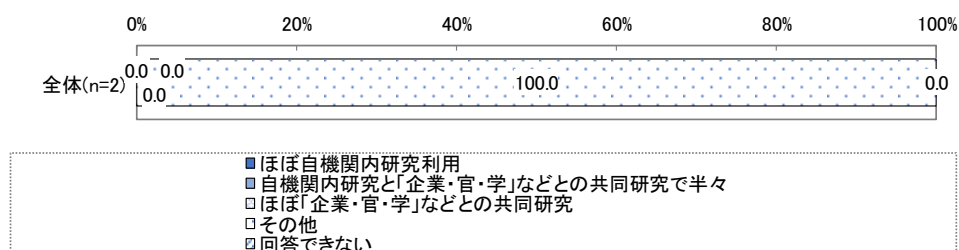
「不可能である理由」の内容

特に記載はなかった。

(9) Q6. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】繁殖させたカニクイザルの利用について教えてください。

全体では、どの項目も 0.0%で、「その他」が 100.0%であった。また「回答できない」は 0.0%であった。

図表 11 繁殖させたカニクイザルの利用について教えてください。



	全体	ほぼ自機関内研究利用	自機関内研究と「企業・官・学」などの共同研究で半々	ほぼ「企業・官・学」などの共同研究	その他	回答できない
n数	2	-	-	-	2	-
%	100%	-	-	-	100.0%	-

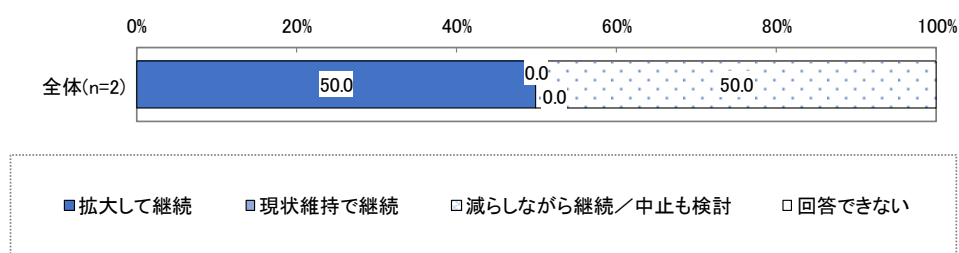
「その他」の内容

1	自機関内での研究利用のみならず、産、官、学との共同研究も多数実施している。
2	自機関内研究利用、AMED-SCARDA ワクチン開発事業用、学外アカデミア

(10) Q7. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】カニクイザル繁殖について今後はどうするか教えてください。

全体では、「拡大して継続」が50.0%、「現状維持で継続」が0.0%、「減らしながら継続／中止も検討」が0.0%であった。また「回答できない」は50.0%であった。

図表 12 カニクイザル繁殖について今後はどうするか教えてください。



	全体	拡大して継続	現状維持で継続	減らしながら継続／中止も検討	回答できない
n数	2	1	-	-	1
%	100%	50.0%	-	-	50.0%

(11) Q7-1. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

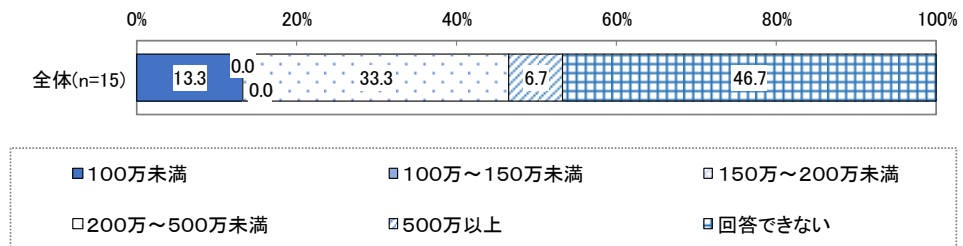
1	<p>Q5: 遺伝子改変疾患モデルザルの作成については研究として試みることはある。</p> <p>その他: 繁殖規模等の今後について、決定している事項はなく回答できない。個人的意見となるが、研究用カニクイザルの研究需要が増えていることは実感しており、繁殖、育成、研究の規模を拡大すべきであると考えているが、拡大するためには予算等の措置が必要である。</p>
---	--

4 カニクイザルの入手価格について

(1) Q8. 【Q1-1で「委託試験など他施設で研究を実施（もしくは実施を予定）している」「回答できない」と回答した方、または、Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】カニクイザルの入手価格について教えてください。

全体では、「100万未満」が13.3%、「100万～150万未満」が0.0%、「150万～200万未満」が0.0%、「200万～500万未満」が33.3%、「500万以上」が6.7%であった。また「回答できない」は46.7%であった。

図表 13 カニクイザルの入手価格について教えてください。

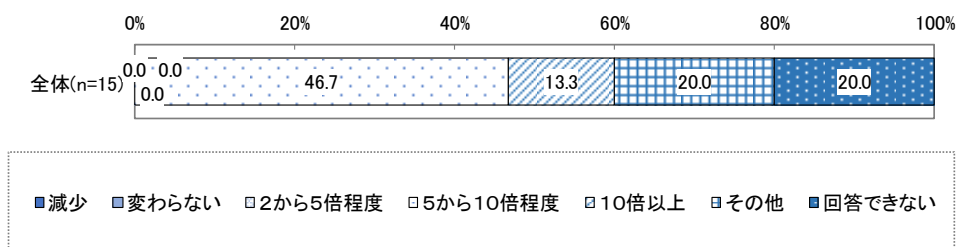


	全体	100万未満	100万～150万未満	150万～200万未満	200万～500万未満	500万以上	回答できない
n数	15	2	-	-	5	1	7
%	100%	13.3%	-	-	33.3%	6.7%	46.7%

(2) Q8-1. 【Q1-1で「委託試験など他施設で研究を実施（もしくは実施を予定）している」「回答できない」と回答した方、または、Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】可能であれば約10年前とくらべ単価はどのくらいになりましたか？

全体では、「減少」が0.0%、「変わらない」が0.0%、「2から5倍程度」が0.0%、「5から10倍程度」が46.7%、「10倍以上」が13.3%であった。また「回答できない」は20.0%であった。

図表 14 可能であれば約10年前とくらべ単価はどのくらいになりましたか？



	全体	減少	変わらない	2から5倍程度	5から10倍程度	10倍以上	その他	回答できない
n数	15	-	-	-	7	2	3	3
%	100%	-	-	-	46.7%	13.3%	20.0%	20.0%

「その他」の内容

1	ほとんどがインドネシアから2000年前後に輸入した個体とその子孫で、長年購入していない。
2	委託機関で繁殖しているカニクイザルを使用しているため分からない。
3	自家繁殖を基本としているため、ほとんど入荷することがない。とくにコロナ禍のあとは一切入荷していない。

5 カニクイザルの飼育規模及び年齢について

(1) Q9-1. ~Q9-6. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】カニクイザルを保有・飼育している飼育規模及び年齢について教えてください。

<直近一ヶ月での飼育数（概算）>

全体では、「平均」が215.0頭、「中央値」が9.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が1800頭であった。また「標準偏差」は504.88であった。

図表 15 直近一ヶ月での飼育数（概算）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	215.0	9.0	504.88	0	1800

「その他（補足事項）」の内容

1	数年前迄は5頭程度を飼育していたが、数年前よりあまりに高額となったため、現在はマーモセットに切り替えて実験を実施している
2	流動的ではあるが1,500-2,000頭を保有・飼育している。

<2022年度安楽死数>

全体では、「平均」が14.8頭、「中央値」が1.5頭、「最小値」が0.0頭、「最大値」が138.0頭であった。また「標準偏差」は37.59であった。

図表 16 2022年度安楽死数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	14.8	1.5	37.59	0	138

「その他（補足事項）」の内容

1	自然死、死産、流産胎児を含んだ死亡数は220頭である（2022年11月1日～2023年10月31日）。
---	---

<2019 年以降の平均飼育数>

全体では、「平均」が 214.0 頭、「中央値」が 7.5 頭、「最小値」が 3 頭、「最大値」が 1800 頭であった。また「標準偏差」は 505.10 であった。

図表 17 2019 年以降の平均飼育数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	214.0	7.5	505.10	3	1800

「その他（補足事項）」の内容

1	上記数字は飼育していた頃の 1 年あたりの平均飼育数です
2	常時 1,500-2,000 頭を保持飼育している。

<最大収容数>

全体では、「平均」が 275.2 頭、「中央値」が 19.5 頭、「最小値」が 6 頭、「最大値」が 2000 頭であった。また「標準偏差」は 574.72 であった。

図表 18 最大収容数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	275.2	19.5	574.72	6	2000

「その他（補足事項）」の内容

1	個体の年齢、体重により収容可能数は異なる。また、緊急時避難のスペースを保持することを意識して運用しており、現在の規模では 1,500-2,000 頭が妥当と考えている。
2	子ザルも含めるとおよそ 900 頭の飼育規模

<サルの年齢幅（上限）>

全体では、「平均」が 16.8 歳、「中央値」が 12.0 歳、「最小値」が 6 歳、「最大値」が 40 歳であった。また「標準偏差」は 10.20 であった。

図表 19 サルの年齢幅（上限）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	16.8	12.0	10.20	6	40

<サルの年齢幅（下限）>

全体では、「平均」が 4.4 歳、「中央値」が 2.0 歳、「最小値」が 0 歳、「最大値」が 20 歳であった。また「標準偏差」は 5.72 であった。

図表 20 サルの年齢幅（下限）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	12	4.4	2.0	5.72	0	20

「その他（補足事項）」の内容

1	過去には 36 歳、現在の最高齢は 30 歳
2	上限、下限の意味がわからない。繁殖を実施しているため、分娩直後（0 歳）から保有している。また、高齢化社会に対応した研究のために高齢個体を寿命まで保有している。40 歳を超えることもあるが数は少ない。

<最も利用された年齢>

全体では、「平均」が 3.8 歳、「中央値」が 4.0 歳、「最小値」が 0 歳、「最大値」が 7 歳であった。また「標準偏差」は 1.66 であった。

図表 21 最も利用された年齢

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	10	3.8	4.0	1.66	0	7

「その他（補足事項）」の内容

1	4-5 歳が最も使用頻度が高い
2	最近の実験利用していない。
3	不明のため 0 と入力した。幅広く利用されているため、調査しなければ不明。

(2) Q9-7. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

1	現在飼育している個体は、10年以上前に購入し、継続して飼養しているものです。
---	--

(3) Q10-1. 【Q2で「各種サル」を回答した方】直近一ヶ月での飼育数（概算）：保有・飼育している飼育規模（カニクイザル以外）について教えてください。

<アカゲザル>

全体では、「平均」が19.8頭、「中央値」が3.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が170頭であった。また「標準偏差」は47.86であった。

図表 22 アカゲザル：直近一ヶ月での飼育数（概算）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	11	19.8	3.0	47.86	0	170

<ニホンザル>

全体では、「平均」が49.5頭、「中央値」が8.0頭、「最小値」が1頭、「最大値」が820頭であった。また「標準偏差」は172.70であった。

図表 23 ニホンザル：直近一ヶ月での飼育数（概算）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	21	49.5	8.0	172.70	1	820

<マーモセット>

全体では、「平均」が117.1頭、「中央値」が37.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が650頭であった。また「標準偏差」は176.16であった。

図表 24 マーモセット：直近一ヶ月での飼育数（概算）

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	17	117.1	37.0	176.16	0	650

「その他（補足事項）」の内容

1	46頭
2	流動的であるため0と入力した。研究用として保有しているものであり、頭数は保有機関の研究内容によって異なる。

(4) Q10-2. 【Q2で「各種サル」を回答した方】2022年安楽死数：保有・飼育している飼育規模（カニクイザル以外）について教えてください。

<アカゲザル>

全体では、「平均」が2.0頭、「中央値」が0.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が13頭であった。また「標準偏差」は3.77であった。

図表 25 アカゲザル：2022年安楽死数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	11	2.0	0.0	3.77	0	13

<ニホンザル>

全体では、「平均」が2.3頭、「中央値」が0.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が25頭であった。また「標準偏差」は5.55であった。

図表 26 ニホンザル：2022年安楽死数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	21	2.3	0.0	5.55	0	25

<マーモセット>

全体では、「平均」が22.1頭、「中央値」が5.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が200頭あった。また「標準偏差」は46.85であった。

図表 27 マーモセット：2022年安楽死数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	17	22.1	5.0	46.85	0	200

「その他（補足事項）」の内容

1	2022年11月1日から2023年10月31日の数を記載した。
2	3頭

(5) Q10-3. 【Q2で「各種サル」を回答した方】2019年以降の平均飼育数：保有・飼育している飼育規模（カニクイザル以外）について教えてください。

<アカゲザル>

全体では、「平均」が23.1頭、「中央値」が5.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が180頭であった。また「標準偏差」は52.61であった。

図表 28 アカゲザル：2019年以降の平均飼育数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	10	23.1	5.0	52.61	0	180

<ニホンザル>

全体では、「平均」が48.9頭、「中央値」が8.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が770頭であった。また「標準偏差」は165.96であった。

図表 29 ニホンザル：2019年以降の平均飼育数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	20	48.9	8.0	165.96	0	770

<マーモセット>

全体では、「平均」が115.5頭、「中央値」が33.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が680頭であった。また「標準偏差」は180.67であった。

図表 30 マーモセット：2019年以降の平均飼育数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	17	115.5	33.0	180.67	0	680

「その他（補足事項）」の内容

1	45～50頭前後
2	いずれも研究用であり変動するため0と入力した。

(6) Q10-4. 【Q2で「各種サル」を回答した方】最大収容数：保有・飼育している飼育規模（カニクイザル以外）について教えてください。

<アカゲザル>

全体では、「平均」が41.1頭、「中央値」が20.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が220頭であった。また「標準偏差」は59.58であった。

図表 31 アカゲザル：最大収容数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	11	41.1	20.0	59.58	0	220

<ニホンザル>

全体では、「平均」が68.3頭、「中央値」が17.0頭、「最小値」が3頭、「最大値」が850頭であった。また「標準偏差」は180.33であった。

図表 32 ニホンザル：最大収容数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	21	68.3	17.0	180.33	3	850

<マーモセット>

全体では、「平均」が171.5頭、「中央値」が80.0頭、「最小値」が0頭、「最大値」が1200頭であった。また「標準偏差」は286.17であった。

図表 33 マーモセット：最大収容数

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	17	171.5	80.0	286.17	0	1200

「その他（補足事項）」の内容

1	70頭程度
2	研究のために必要ならば対応している。明確な上限はないため0と入力した。

(7) Q10-5. 【Q2で「各種サル」を回答した方】その他になにかあればご記載ください。

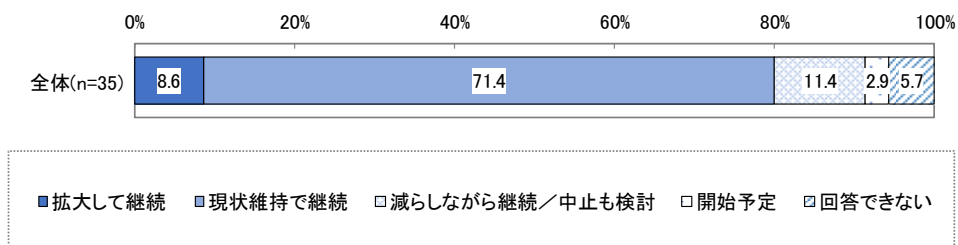
1	アカゲザルとニホンザルのケージは共通であり、その合計最大収容数が15である。
2	アカゲザルの使用実績 2019年：0頭、2020年：12頭、2021年：2頭、2022年：0頭、2023年：0頭
3	これらに加えて動物実験施設にニホンザル用借用飼育スペース（13頭）・実験スペースがある 共同研究先の本学精神科保有のサルも保管している
4	サルとして最大収容数が6頭。アカゲ用の専用ケージは2頭分のみ、ニホンザル用は6頭分。
5	マーモセット卵巣を、マウスに異種移植し、マーモセット卵子や受精卵を作製する研究開発を行っています。飼育する、マーモセット個体数は、なるべく少なくしています。
6	研究のために必要ならば対応しているが、そのときの動物室の空き状況によっても多少対応は変わる可能性がある。
7	収容数24頭のうち、19頭は研究室内の飼養施設、5頭は附属動物実験施設で飼養できるようになっている。
8	特になし

6 サル類飼育の今後について

(1) Q11. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類飼育について今後（これから5年間）はどうするか教えてください。

全体では、「拡大して継続」が8.6%、「現状維持で継続」が71.4%、「減らしながら継続／中止も検討」が11.4%、「開始予定」が2.9%であった。また「回答できない」は5.7%であった。

図表 34 サル類飼育について今後（これから5年間）はどうするか教えてください。



	全体	拡大して 継続	現状維持 で継続	減らしなが ら継続／ 中止も検 討	開始予定	回答でき ない
n数	35	3	25	4	1	2
%	100%	8.6%	71.4%	11.4%	2.9%	5.7%

(2) Q11-1. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

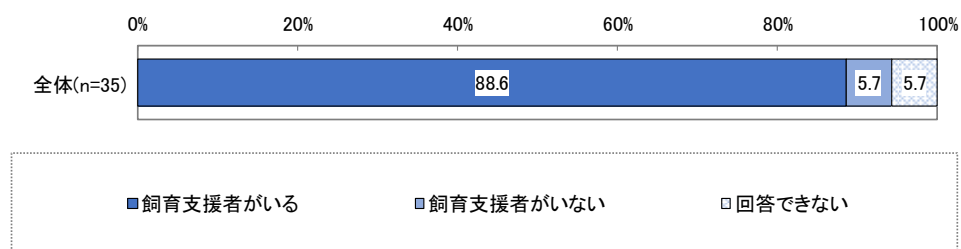
1	このままの価格および入手困難が今後も継続するようであれば使用数の削減も検討する。
2	マーモセットは施設内で増やして研究者に提供するつもり
3	マーモセットは縮小予定
4	移植医療や再生医療の研究成果をヒトに応用する際、どうしてもサルを用いた非臨床 POC 試験が必須となるので、何とかアカデミア価格として科研費で購入できる様な価格設定を切に望みます
5	改正動愛法の中身や世間等の流れを見計らいつつ、
6	今後のことで決定している事項はないため回答できない。個人的には、サルの利用の必要性が拡大されている現状を鑑みると拡大すべきであると考えているが、そのためには施設規模の拡大を検討する必要がある。
7	大規模プロジェクトのもとで、研究開発を行ってきました。今後の研究費の獲得状況により、研究規模は変わると思います。
8	必要に応じて使用（委託研究機関にて） 施設利用者の要望により当施設での飼育を検討する。
9	特になし

7 各種支援者、担当者について

(1) Q12. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の状況について教えてください。

全体では、「飼育支援者がいる」が88.6%、「飼育支援者がいない」が5.7%であった。また「回答できない」は5.7%であった。

図表 35 サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の状況について教えてください。



	全体	飼育支援者がいる	飼育支援者がいない	回答できない
n数	35	31	2	2
%	100%	88.6%	5.7%	5.7%

(2) Q12-1. 【Q12で「飼育支援者がいる」と回答した方】サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の支援者数について教えてください。

全体では、「平均」が4.2人、「中央値」が3.0人、「最小値」が0人、「最大値」が28人であった。また「標準偏差」は5.10であった。

図表 36 サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の支援者数について教えてください。

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	30	4.2	3.0	5.10	0	28

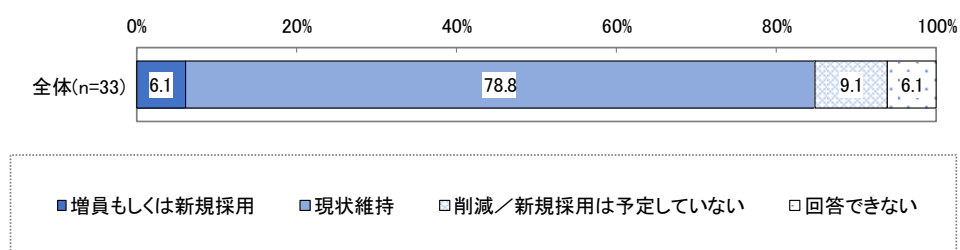
「その他（補足事項）」の内容

1	サル類の飼育支援者は、専任職員ではなく、他の動物種の飼育管理も行いつつ、業務時間の一部で担当してもらっています。
2	委託研究機関にて配置されている
3	外部企業に業務委託しており、業務内容に対して何名で担当するかは受託企業が決めることになる。とくに人数は決めていないため0と入力した。
4	研究室内の飼養施設では、研究補助員1名と研究者で世話をしている。附属動物実験施設では、他の大型動物と一緒に外注している。
5	支援者として計上した内、5名は学生のRA雇用等による。残り3名はポスドク研究員であり、飼育支援専任のスタッフは雇用していない。
6	飼育管理と施設設備管理は、霊長類管理室が全て担っています。
7	飼育支援者はサル類専任ではなく、他の動物の飼育管理も担当しております。
8	人数は飼育担当者数、必要時は施設教員1名が補助、利用グループメンバーによる補助食給餌あり
9	総数6名、実質1名が担当し、他は別の動物を担当。
10	土日休日は別契約
11	本センターでは、飼育支援者、技術支援者、発生工学支援者専任とはなっておらず、重複して担当しています。 現在合計19名いますが、獣医師3名、飼育支援者13名、技術支援者12名が複数の支援に関わっています。
12	特になし

(3) Q12-2. 【Q12で「飼育支援者がいる」「飼育支援者がいない」と回答した方】サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の今後について教えてください。

全体では、「増員もしくは新規採用」が6.1%、「現状維持」が78.8%、「削減／新規採用は予定していない」が9.1%であった。また「回答できない」は6.1%であった。

図表 37 サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の今後について教えてください。



	全体	増員もしくは新規採用	現状維持	削減／新規採用は予定していない	回答できない
n数	33	2	26	3	2
%	100%	6.1%	78.8%	9.1%	6.1%

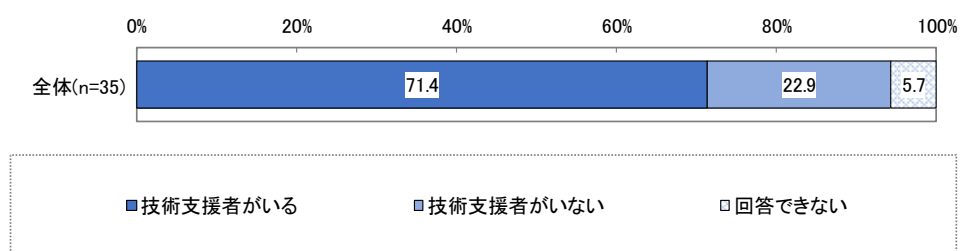
(4) Q12-3. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の飼育支援者（給餌・洗浄など飼育管理）の状況について、その他になにかあればご記載ください。

1	Q12-2に回答した通り、そのほかの業務担当の者も、人手不足で飼育支援にまわっているのが現状です。その為、現在資金の目処は立っていませんが、人件費を確保できる予算が確保できれば、全ての支援担当者の増員を計画しています。
2	サルは齧歯類などに比べとてもストレスに敏感なので、飼育支援者には十分な経験が求められるが、そういった人材を国内で探すのは極めて困難です。そういった人材を育成する教育体制の確立が急務だと思います。
3	マウス等と比較しての微生物管理の問題等により同一施設で別種の動物を飼育するには人員が不足している。また霊長類としての動物を実験に用いるのは、、等々の感情論も強くなってきている。この中で飼育等の対応は大変である、と考える。
4	委託先研究機関には配置されている 当施設にて飼育することになれば、現状では居ないため、飼育支援者の育成あるいは新規採用が必要となる
5	研究補佐員が一部飼育業務も行うが、飼育管理専門に特化している者はいない。
6	人材不足です。
7	大規模研究プロジェクトのもとで、研究費を配分されて実施してきました。今後は、研究プロジェクトからの予算の獲得の見通しで、規模なども変わると思います。
8	来年の3月を目途に実験責任者以外の飼養者の確保を、実験責任者が所属する部局の長へ依頼している。
9	特にありません
10	特になし

(5) Q13. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の状況について教えてください。

全体では、「技術支援者がいる」が71.4%、「技術支援者がいない」が22.9%であった。また「回答できない」は5.7%であった。

図表 38 サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の状況について教えてください。



	全体	技術支援者がいる	技術支援者がいない	回答できない
n数	35	25	8	2
%	100%	71.4%	22.9%	5.7%

(6) Q13-1. 【Q13で「技術支援者がいる」と回答した方】サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の支援者数について教えてください。

全体では、「平均」が3.1人、「中央値」が2.0人、「最小値」が0人、「最大値」が10人であった。また「標準偏差」は2.73であった。

図表 39 サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の支援者数について教えてください。

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	24	3.1	2.0	2.73	0	10

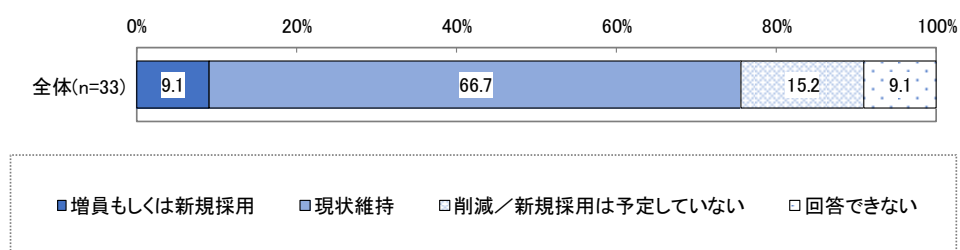
「その他（補足事項）」の内容

1	2人は飼育支援と兼任
2	委託先研究機関による
3	技術支援は各研究者が委託することになるため、人数は不明。0人と入力した。
4	技術支援者8名のうち5名は飼育支援者と同一
5	研究室で雇用している研究補助員とともに、大学院生などが手術などの補助をしている。
6	大学雇用6名、派遣・請負4名（Q12-Q14は人員の全てが重複しています） 技術支援者の技術継承が課題。増員を図っているが、未だ技術の継承には不十分
7	大規模研究プロジェクトのもとで、研究費を配分されて実施してきました。技術支援者も、他の動物種の技術支援の業務を行うことに併せて、サル類の担当してもらいました。 今後は、研究プロジェクトからの予算の獲得の見通しで、規模なども変わると思っています。
8	特になし

(7) Q13-2. 【Q13で「技術支援者がいる」「技術支援者がいない」と回答した方】サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の今後について教えてください。

全体では、「増員もしくは新規採用」が9.1%、「現状維持」が66.7%、「削減／新規採用は予定していない」が15.2%であった。また「回答できない」は9.1%であった。

図表 40 サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の今後について教えてください。



	全体	増員もしくは新規採用	現状維持	削減／新規採用は予定していない	回答できない
n数	33	3	22	5	3
%	100%	9.1%	66.7%	15.2%	9.1%

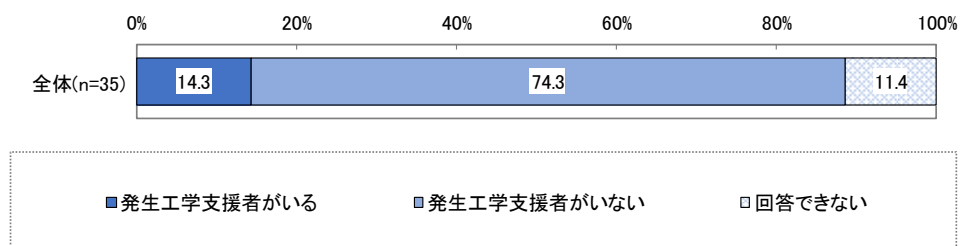
(8) Q13-3. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の技術支援者（手術補助などの研究支援）の状況について、その他になにかあればご記載ください。

1	Q12-2に回答した通り、技術支援業務担当の者も、人手不足で飼育支援にまわっているのが現状です。その為、現在資金の目処は立っていませんが、人件費を確保できる予算が確保できれば、技術支援担当者の増員を計画しています。
2	サル類専任の研究支援者はなく、すべて研究者自身が対応しています。
3	委託先研究機関には配置されている 当施設にて飼育することになった場合には、現状では居ないため、育成あるいは採用が必要になる
4	今後のことで決定している事項はない。
5	実験等は原則、研究者側の仕事であるため、施設職員は直接関与しない、していない。
6	大規模研究プロジェクトのもとで、研究費を配分されて実施してきました。今後は、研究プロジェクトからの予算の獲得の見通しで、規模なども変わると思います。
7	必要に応じて、予防衛生協会より獣医師を派遣していただいている。
8	予算に余裕が生じ実際適任者がいる様であれば、すぐにも技術支援者を雇用したいが、これら2つが大きな障壁となり、現状では我々研究者がサルの麻酔、手術、採血など全て実施している状況である。
9	特にありません
10	特になし

(9) Q14. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の状況について教えてください。

全体では、「発生工学支援者がいる」が 14.3%、「発生工学支援者がいない」が 74.3%であった。また「回答できない」は 11.4%であった。

図表 41 サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の状況について教えてください。



	全体	発生工学支援者がいる	発生工学支援者がいない	回答できない
n数	35	5	26	4
%	100%	14.3%	74.3%	11.4%

(10) Q14-1. 【Q14で「発生工学支援者がいる」と回答した方】サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の支援者数について教えてください。

全体では、「平均」が5.4人、「中央値」が5.0人、「最小値」が1人、「最大値」が10人であった。また「標準偏差」は3.26であった。

図表 42 サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の支援者数について教えてください。

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	5	5.4	5.0	3.26	1	10

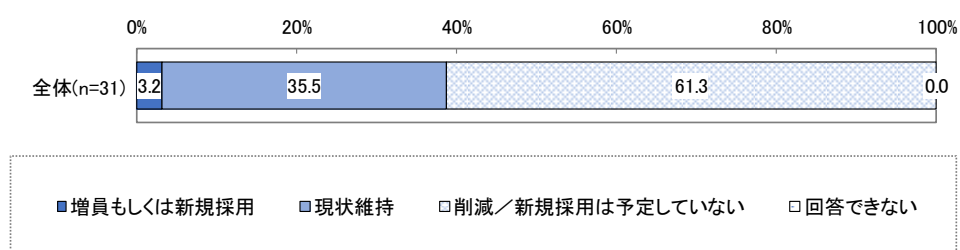
「その他（補足事項）」の内容

1	技術支援者が発生工学支援も行っている
2	他の動物種の発生工学業務を行うことに併せて、一部の時間で、担当してもらっていました。これまでは、大規模研究プロジェクトのもとで、研究費を配分されて実施してきました。今後は、研究プロジェクトからの予算の獲得の見通しで、規模なども変わると思います。
3	大学雇用6名、派遣・請負4名（Q12-Q14は人員の全てが重複しています）

(11) Q14-2. 【Q14で「発生工学支援者がいる」「発生工学支援者がいない」と回答した方】サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の今後について教えてください。

全体では、「増員もしくは新規採用」が3.2%、「現状維持」が35.5%、「削減／新規採用は予定していない」が61.3%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 43 サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の今後について教えてください。



	全体	増員もしくは新規採用	現状維持	削減／新規採用は予定していない	回答できない
n数	31	1	11	19	-
%	100%	3.2%	35.5%	61.3%	-

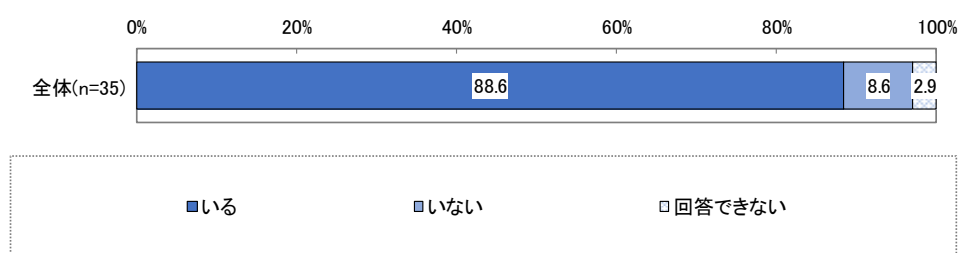
(12) Q14-3. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の発生工学支援者（繁殖工学を含む）の状況について、その他になにかあればご記載ください。

1	これまでは、大規模研究プロジェクトのもとで、研究費を配分されて実施してきました。今後は、研究プロジェクトからの予算の獲得の見通しで、規模なども変わると思います。
2	これもいるに越したことはないが、施設の現状ではそこまでは求められない状況である。まずは技術支援者の確保が優先課題と考える。
3	サル類の発生工学支援まで手を広げることは現状では考えられない。
4	研究・技術支援の内容は各研究者と受託者で決めることになっている。
5	研究用のサル供給が急務となっており、現在資金の目処は立っていませんが、人件費を確保できる予算が確保できれば、採用を計画しています。
6	小規模施設は縮小、廃止の方向へ持って行くのがベターと考える。
7	特にありません
8	特になし

(13) Q15. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】獣医学的管理担当者の状況（サルの健康管理、疼痛管理などが相談できる獣医師について）について教えてください。

全体では、「いる」が88.6%、「いない」が8.6%であった。また「回答できない」は2.9%であった。

図表 44 獣医学的管理担当者の状況（サルの健康管理、疼痛管理などが相談できる獣医師について）について教えてください。



	全体	いる	いない	回答できない
n数	35	31	3	1
%	100%	88.6%	8.6%	2.9%

(14) Q15-1. 【Q15で「いる」と回答した方】獣医師数について教えてください。

全体では、「平均」が1.8人、「中央値」が1.0人、「最小値」が1.0人、「最大値」が9.0人であった。また「標準偏差」は1.58であった。

図表 45 獣医師数について教えてください。

	全体	平均	中央値	標準偏差	最小値	最大値
全体	31	1.8	1.0	1.58	1	9

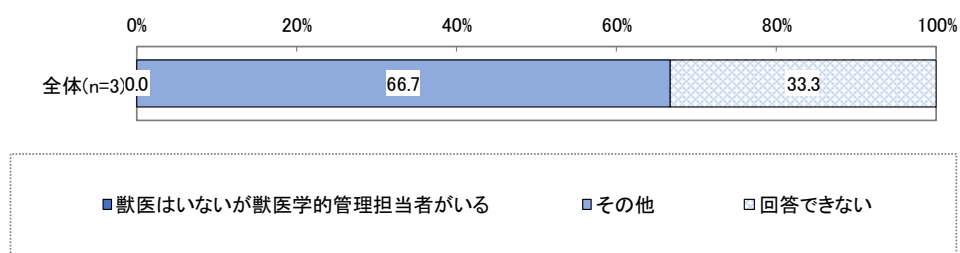
「その他（補足事項）」の内容

1	2名いるが、いずれも専任ではない。
2	サル専任の獣医師はおりませんが、実験実施者（獣医）と動物管理室（獣医）が協議して疼痛管理等を行っています。 獣医師は他にもいますが、サルの実験には携わっていないため、Q15-1の数に加えていません。
3	計9名であるが、うち5名は業務委託している企業の職員である。
4	実験動物医学専門医（DJCLAM）取得者
5	獣医看護師1名と、必要に応じて従事する獣医師4名がいる。
6	獣医師1名は施設教員
7	上記は学内にいるわけではないが、他学のサル専門獣医師に非常勤講師となつて頂いており、必要時に相談する体制となっている
8	他所属の者と契約
9	動物実験施設の飼育管理者スタッフとして獣医師が従事しています。常勤でないため、将来にわたっては、常勤獣医師の雇用が重要と思います。
10	附属動物実験施設に常勤の獣医師（教員および技術員）がいる
11	特になし

(15) Q15-2. 【Q15で「いない」と回答した方】獣医学的管理担当者の現状について教えてください。

全体では、「獣医はいないが獣医学的管理担当者がある」が0.0%、「その他」が66.7%であった。また「回答できない」は33.3%であった。

図表 46 獣医学的管理担当者の現状について教えてください。



	全体	獣医はいないが獣医学的管理担当者がある	その他	回答できない
n数	3	-	2	1
%	100%	-	66.7%	33.3%

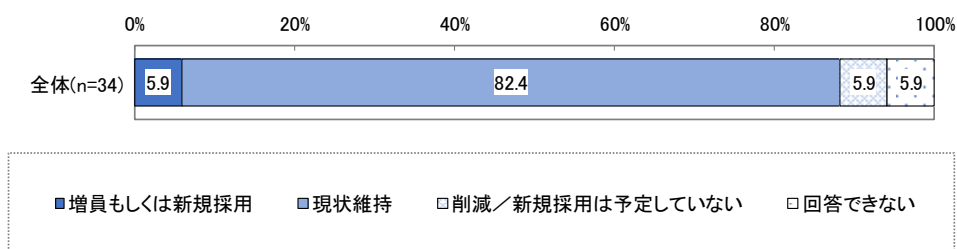
「その他」の内容

1	動物実験施設に在籍する獣医に相談している
2	動物実験施設に在籍する獣医に相談している

(16) Q15-3. 【Q15で「いる」「いない」と回答した方】獣医学的管理担当者の今後について教えてください。

全体では、「増員もしくは新規採用」が5.9%、「現状維持」が82.4%、「削減／新規採用は予定していない」が5.9%であった。また「回答できない」は5.9%であった。

図表 47 獣医学的管理担当者の今後について教えてください。



	全体	増員もしくは新規採用	現状維持	削減／新規採用は予定していない	回答できない
n数	34	2	28	2	2
%	100%	5.9%	82.4%	5.9%	5.9%

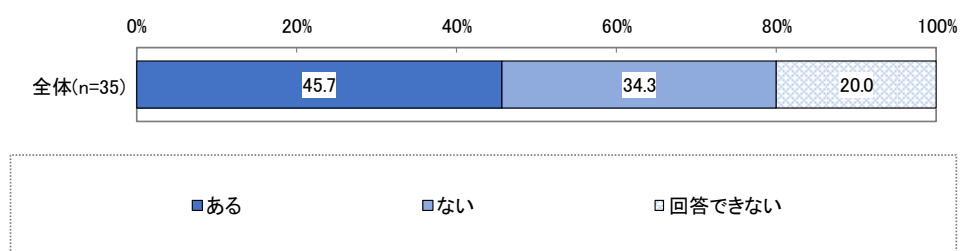
(17) Q15-4. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】獣医学的管理担当者の状況について、その他になにかあればご記載ください。

1	1名が獣医師と技術補助者と飼育員を兼ねている。
2	サルの管理を獣医学部での教育の過程で学ぶ事は不可能なのが現状です。そのため、自前で若手のサルの獣医師を育成する必要があると痛感しております。現段階では資金面では未定であるが、今後の人材育成や日本のサル研究力の強化のため、目処がつけば採用を望んでいます。
3	サル類に限らず、動物種全般に、獣医師が必要です。現在、動物実験施設の飼育管理者スタッフとして獣医師が従事しています。常勤でないため、将来にわたっては、常勤獣医師の雇用が重要と思います。
4	委託先研究機関に配置されている。 当施設にて飼育が開始されるとなれば、現状では居ないため、育成あるいは採用が必要となる。
5	今後のことで決定している事項はない。個人的には、獣医師は多いほど良いと考えている。
6	増員したいが、適任者がいないのが現状です。
7	動愛法等、3Rs、5F等をしっかり守らせるだけ。
8	臨床獣医師ではなくサルを専門としてはいない
9	特になし

(18) Q16. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】サル類の次世代担当者実験技術者の育成に関する課題の有無について教えてください。

全体では、「ある」が45.7%、「ない」が34.3%であった。また「回答できない」は20.0%であった。

図表 48 サル類の次世代担当者実験技術者の育成に関する課題の有無について教えてください。



	全体	ある	ない	回答できない
n数	35	16	12	7
%	100%	45.7%	34.3%	20.0%

(19) Q16-1. 【Q1で「使用あり」「現在は使用していないが今後使用予定あり」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

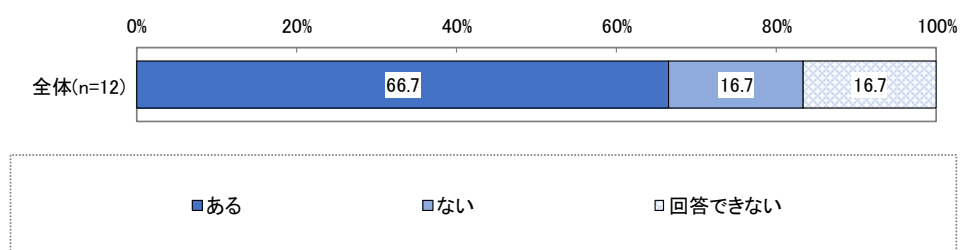
1	これまでに小動物での感染実験を行ってきたので、サル類の実験系をはじめら か構築もしくは他研究施設との共同研究で始める必要があり、ノウハウが私た ちの研究施設ではまったくない。
2	サルを担当できる常勤職員がいない
3	サル飼育室が小規模であるため、専任のスタッフを配置できておらず、サルに特 化した専門性の高い技術者はいない。
4	サル類を扱う研究者・実験技術者は年々減少の一途をたどっており、次世代の育 成は急務である。
5	サル類を扱ったことのある経験者がいない、もしくは少なく、育成が前提とな る。
6	教育、実習等については、希望に応じてその都度対応している。
7	施設におけるサルを含む中大動物の比重が低下している現状では、欠員が生じ た場合の要員補充は困難と思われる。
8	次世代への人材育成の機会を設けることはとても重要と思います。
9	小規模施設は縮小、ないし廃止の方向へ持って行くべき、と考える。
10	定員管理のため、優秀な人材の新規採用が難しい。
11	予算確保 サルに関して十分な経験を有する技術者の不足 上記二点が喫緊の課題
12	利用者の要望次第で、飼育が必要となった場合には、サル類の専門的知識を有す る支援者および獣医師の育成あるいは採用が必要で、そのための人件費等につ いて確保できるかは現状では難しい。
13	特になし

8 カニクイザル入手に関する問題について

(1) Q17. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】カニクイザル入手に関して問題となることはありますか。

全体では、「ある」が66.7%、「ない」が16.7%であった。また「回答できない」は16.7%であった。

図表 49 カニクイザル入手に関して問題となることはありますか。

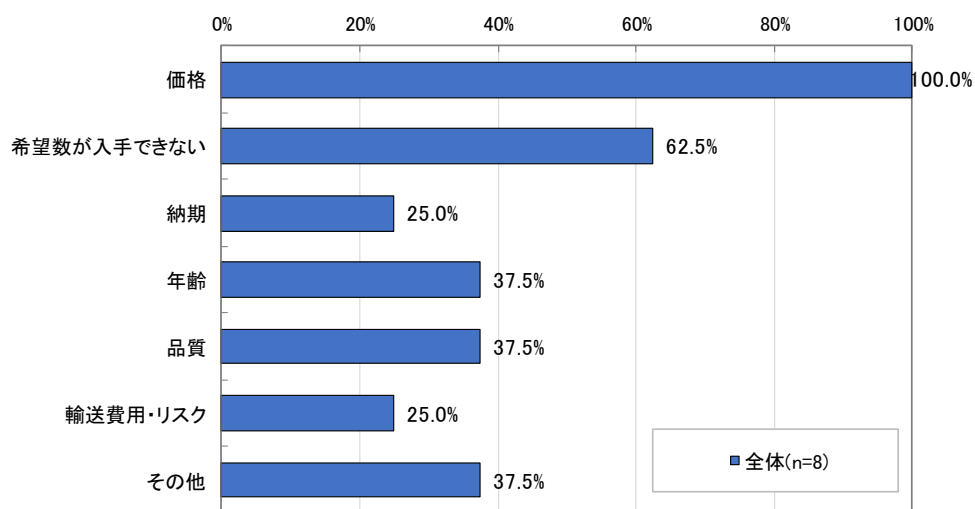


	全体	ある	ない	回答できない
n数	12	8	2	2
%	100%	66.7%	16.7%	16.7%

(2) Q17-1. 【Q17で「ある」と回答した方】ある場合、課題・問題をお知らせください。(複数選択)

全体では、「価格」が100.0%と最も高く、「希望数が入手できない」が62.5%、「年齢」と「品質」が37.5%、「納期」と「輸送費用・リスク」が25.0%であった。

図表 50 ある場合、課題・問題をお知らせください。(複数選択)



	全体	価格	希望数が 入手でき ない	納期	年齢	品質	輸送費用・ リスク	その他
n数	8	8	5	2	3	3	2	3
%	100%	100.0%	62.5%	25.0%	37.5%	37.5%	25.0%	37.5%

「その他」の内容

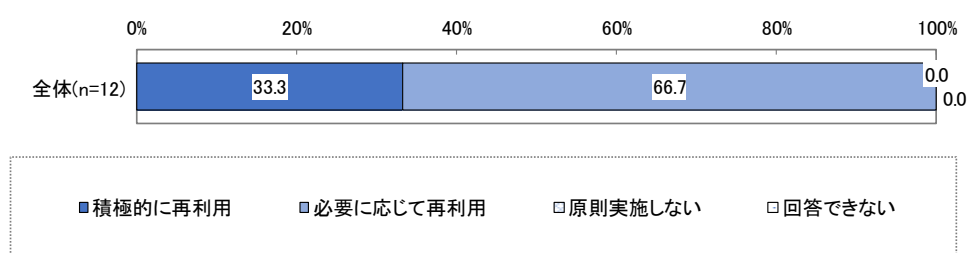
1	価格変動により予算確保が難しい
2	国内大手企業に確認した範囲では、そもそも数年先まで予約が一杯で購入できない状況と聞いています
3	入手出来る産地に偏りがある

9 サルの再利用について

(1) Q18. 【Q2で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】サルの再利用について教えてください。

全体では、「積極的に再利用」が33.3%、「必要に応じて再利用」が66.7%、「原則実施しない」が0.0%であった。また「回答できない」は0.0%であった。

図表 51 サルの再利用について教えてください。

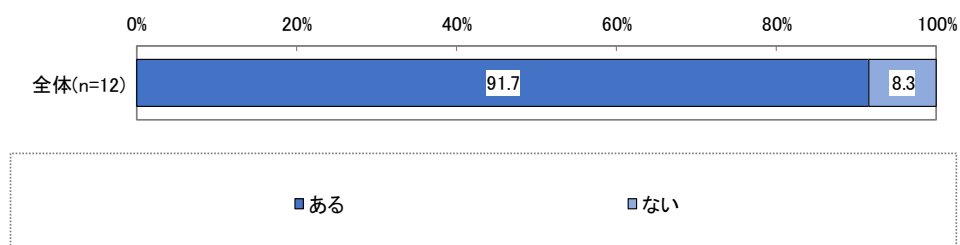


	全体	積極的に再利用	必要に応じて再利用	原則実施しない	回答できない
n数	12	4	8	-	-
%	100%	33.3%	66.7%	-	-

(2) Q18-1. 【Q18で「積極的に再利用」「必要に応じて再利用」と回答した方】サル再利用に関して条件はございますか。

全体では、「ある」が91.7%、「ない」が8.3%であった。

図表 52 サル再利用に関して条件はございますか。

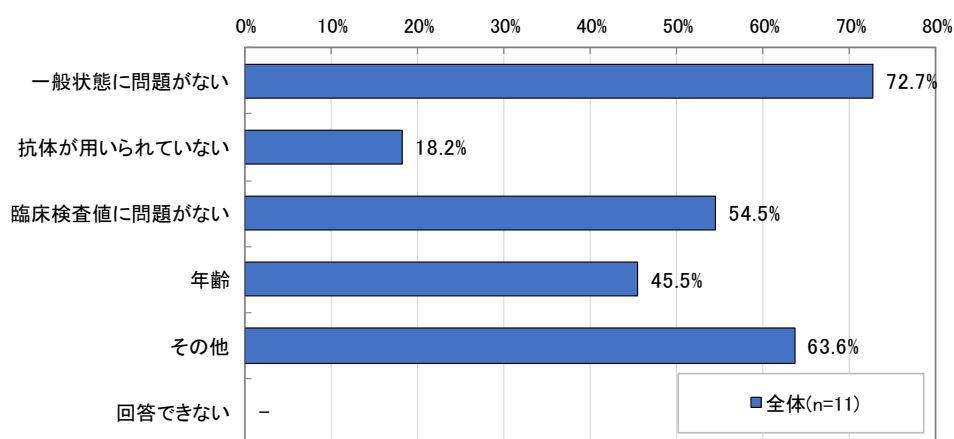


	全体	ある	ない
n数	12	11	1
%	100%	91.7%	8.3%

(3) Q18-2. 【Q18-1 で「ある」と回答した方】ある場合、条件を教えてください。
(複数選択)

全体では、「一般状態に問題がない」が 72.7%と最も高く、「臨床検査値に問題がない」が 54.5%、「年齢」が 45.5%、「抗体が用いられていない」が 18.2%であった。また「回答できない」は 0.0%であった。

図表 53 ある場合、条件を教えてください。(複数選択)



	全体	一般状態に問題がない	抗体が用いられていない	臨床検査値に問題がない	年齢	その他	回答できない
n数	11	8	2	6	5	7	-
%	100%	72.7%	18.2%	54.5%	45.5%	63.6%	-

「その他」の内容

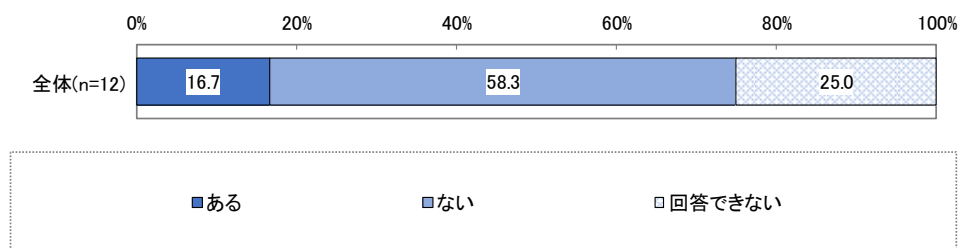
1	移植実験では、何らかの抗原接触による感作が成立していないことが重要
2	外科的侵襲がない処置に限る
3	苦痛度を基本にした考え方の再利用のルールを設けている。
4	研究対象部位に異常がない
5	実験内容により、別途条件があることも予想されます。
6	大手術を繰り返さない
7	負荷の大きい手術を伴う実験に供した個体は、3回目の実験で安楽死

10 ABS 対応での課題の有無について

(1) Q19. 【Q2 で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】サル類の実験を実施する上で、ABS 対応での課題の有無について教えてください。

全体では、「ある」が 16.7%、「ない」が 58.3%であった。また「回答できない」は 25.0%であった。

図表 54 サル類の実験を実施する上で、ABS 対応での課題の有無について教えてください。



	全体	ある	ない	回答できない
n数	12	2	7	3
%	100%	16.7%	58.3%	25.0%

(2) Q19-1. 【Q2 で「カニクイザル（飼育および繁殖）」「カニクイザル（飼育のみ）」と回答した方】その他になにかあればご記載ください。

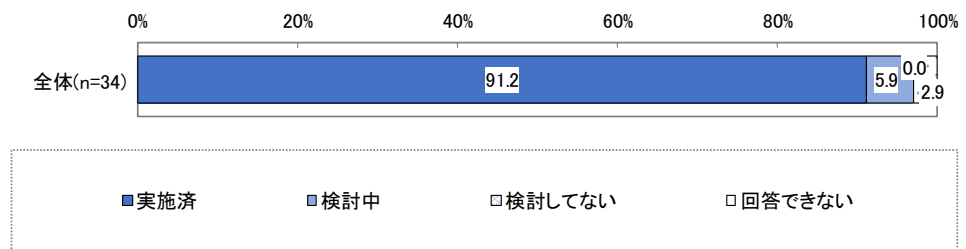
1	国内大手業者から購入した経験しかないので、ABS 対応で自分が直接的に課題を感じたことはない
---	--

1.1 外部検証の取得状況について

(1) Q20. 【Q1で「使用あり」と回答した方】外部検証の取得状況について教えてください。

全体では、「実施済」が91.2%、「検討中」が5.9%、「検討してない」が0.0%であった。また「回答できない」は2.9%であった。

図表 55 外部検証の取得状況について教えてください。

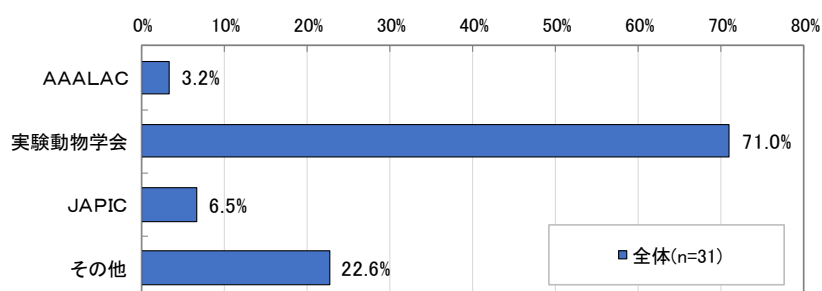


	全体	実施済	検討中	検討して ない	回答でき ない
n数	34	31	2	-	1
%	100%	91.2%	5.9%	-	2.9%

(2) Q20-1. 【Q20で「実施済」と回答した方】実施済みの外部認証について教えてください。(複数選択)

全体では、「実験動物学会」が71.0%と最も高く、「JAPIC」が6.5%、「AAALAC」が3.2%であった。

図表 56 実施済みの外部認証について教えてください。(複数選択)



	全体	AAALAC	実験動物学会	JAPIC	その他
n数	31	1	22	2	7
%	100%	3.2%	71.0%	6.5%	22.6%

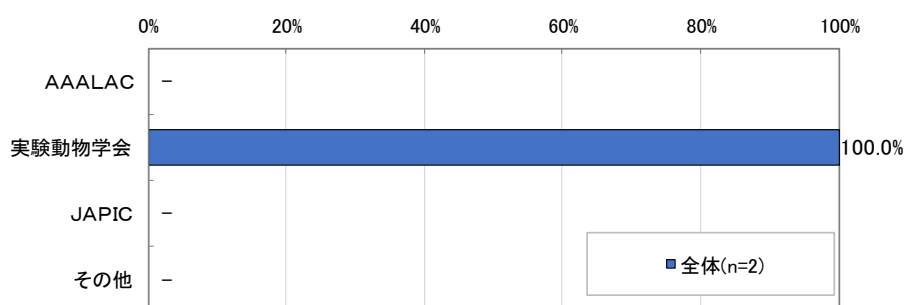
「その他」の内容

1	HS 財団
2	研究所外の委員により構成される外部評価
3	動物実験に関する相互検証プログラム
4	動物実験に関する相互検証プログラム
5	動物実験に関する相互検証プログラム
6	動物実験検証委員会
7	利益相反のない有識者に依頼した。

(3) Q20-2. 【Q20で「検討中」と回答した方】検討中の外部認証について教えてください。(複数選択)

全体では、「実験動物学会」が100.0%と最も高く、「AAALAC」が0.0%、「JAPIC」が0.0%であった。

図表 57 検討中の外部認証について教えてください。(複数選択)



	全体	AAALAC	実験動物学会	JAPIC	その他
n数	2	-	2	-	-
%	100%	-	100.0%	-	-

(4) Q20-3. 【Q1で「使用あり」と回答した方】外部検証の取得状況について、その他になにかあればご記載ください。

1	委託先研究機関は認証を受けている。 当施設ではサルの飼育はないが、外部検証は受検している。
2	今月、受審予定
3	今年度、検証中
4	施設として資金、マンパワーに十分な余裕が生じれば AAALAC 取得を考慮すべきと考えます
5	前回実施から年月が経過しているため、近々実施することを検討している。利益相反関係にない霊長類有識者がほとんどいないのが課題。
6	直近では、2019年受検済みです。次回の実施時期を検討中です。
7	特にありません
8	特になし

12 その他

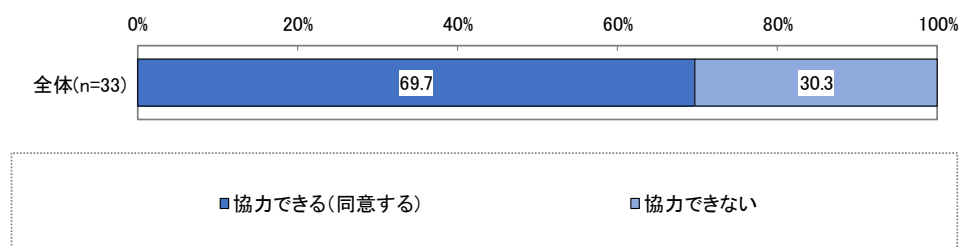
(1) Q21. ご協力ありがとうございました。本アンケートやサルの利用等について自由にご意見をお聞かせください。

1	サルを飼育する予定はないが、組織サンプルを用いた研究を実施したいというニーズがあります。そういったアンケートも実施頂けると幸いです。
2	とにかくアカデミアの研究を推進できるように、サル（移植領域では抗体価の関係からカニクイサルが好ましい）を reasonable な価格で購入できる環境を整えてほしいと切に望みます
3	研究室にヒアリングに来られるということで、動物実験施設宛に届いた本アンケートを送っていただいて回答しましたが、重複しているようであれば、削除してください。
4	飼養保管が機関管理体制であることを考えると、このアンケートでは、各研究機関の動物実験委員会事務局に回答依頼を出し、可能ならば機関の単位で、複数の部署・施設からなる大規模機関の場合は各部署単位での回答も可、とした方がよいのではないかと思います。
5	特に現在の使用はないです。使う場合は、多施設と協力して実施します。
6	日本で、サル類の研究を実施できる大規模は拠点の構築が必要と思います。また、小規模でも、各研究機関で、サル類の研究を行う事ができる環境づくりが必要と思います。
7	非ヒト霊長類を含め重要な生物遺伝資源については、定期的にこうしたアカデミア・産業を対象にしたアンケートを実施し、需要供給のバランス状態を評価して長期的な視点から繁殖・保存・供給可能な体制を整備すべきと考えます。食料と同様、研究開発の鍵となるリソースで海外依存度が大きい場合は、突発的なパンデミック、巨大災害、国際紛争等により国が存続の危機に陥る。
8	本学で繁殖されたサルの主要な供給先は、AMED-SCARDA ワクチン開発事業用であり、他のアカデミア研究者への供給のためにはさらなる増産が必要とされる。しかし、そのためには、施設の拡大などが必要である
9	特になし
10	特になし
11	特になし

(2) Q22. 【Q1-1で「繁殖・飼育し研究を実施（もしくは実施を予定）している」「飼育・研究を実施（もしくは実施を予定）している」と回答した方】現在サルを飼育（もしくは飼育を予定）している機関の方へヒアリング調査にご協力いただけないでしょうか？

全体では、「協力できる（同意する）」が 69.7%、「協力できない」が 30.3%であった。

図表 58 現在サルを飼育（もしくは飼育を予定）している機関の方へヒアリング調査にご協力いただけないでしょうか？



	全体	協力できる(同意する)	協力できない
n数	33	23	10
%	100%	69.7%	30.3%